

令和4年度 鳳凰会グループ総会 役員挨拶

令和4年1月14日

《会長 林 瑞香》

明けましておめでとうございます。今年もまたコロナで始まる一年となりました。

コロナウィルス拡大から早2年が経過しておりますが、未だに収束が見えておらずさらなる感染対策を継続している状況です。

昨年は職員の皆様の努力のおかげで、クラスターを起こした施設は少なく、またクラスターとなった施設も、早期の情報公開、適切な処置により、かなり早くクラスター収束に至りました。これは皆様のご協力のお陰であり、深く感謝しており、また誇りに思います。

コロナウィルスはこの2年間で次々と変異しており、また、増殖し続けています。

昨年はデルタ株が猛威を振るい、さらにはオミクロン株が驚異的な速さで拡大しております。巷では、オミクロン株は重症化が少ないと言われておりますが、感染力は極めて高く、医療機関としては今まで通り十分な感染対策を講じる必要があると思っています。

外来患者様、入院患者様、施設に入居中の方々、利用者様がオミクロン株に感染していると考え行動する必要があると思います。また、それだけでなく日常お会いする全ての方々は、オミクロン株に感染していると考え行動する必要もあると思っております。

職場内では出来るだけの感染対策を講じておりますが、職場外では皆様の高度な判断によるところがああり、引続き皆様一人一人のご協力を頂きたいと思っております。

年初から、かなり難しいお願いをしますが、引続き、適切かつ高度な行動をお願い致します。

グループ全体で力を合わせてコロナを乗り越えることを祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

《会長代理 赤津 拓彦》

皆さん新年明けましておめでとうございます。着座にて失礼致します。

ちょっと早口になります。

昨年同様、新型コロナウイルスに翻弄されている毎日で、心も体も休まることがないと思っております。

皆様の日頃のご精勤に心から感謝申し上げます。

鳳凰会グループは、医療、看護、介護を中核としたグループ企業です。

我々に社会から期待されていることは、病をかかえてお困りの人々のよりよく生きていくこと、よりよく暮らしていくことを支えることです。

ご利用者様の安心、安全、安寧を守り抜くことです。

職員一同が心に持っている他人に対する温かく強い意思、利他の実践を通して、我々がお世話させて頂いている入居者様や入院患者様、外来患者様、在宅患者様、ご家族様の毎日を穏やかにすることです。今日は、楽しかった、有難う、また明日ね、と言ってもらえるような日が続けられるよう努力して参りましょう。

人間は考える葦である、とパスカルは言いました。

現在、パソコンやAIが流行しています。

パソコンで検索すれば答えは出てきますが、正しいかフェイクか分かりません。

検索能力は、大切な能力ですが、どちらかと言えば考える能力の方が大切で、問題解決には必要です。有名な話ですが、パソコン会社の幹部の子供は、リモート教育を受けていません。

多分、パソコンゲームもあまりしていないでしょう。

考える力がなくなり、支配階級の思い通りの人材になることを知っているからです。

顔を突き合わせた対面での教育や、人間関係の構築が一番であることを知っているからです。

私たちは平素、特に考えることなく、五感を使って情報処理を行っています。

五感とは、視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚を指します。

処理された情報は、自分を守るための適切な行動となり、安心、安全をもたらします。

看護や介護の場面を考えた時、五感を集中する相手は、私たちの患者様や、利用者様であり、守る相手も患者様、利用者様です。

新型コロナウィルス感染症の為、直接の接触が困難となると、ガラス越しや画面越しのリモート場面が目に見えます。

私たちの情報収集の手段は、視覚と聴覚が中心となります。

でも、画面の視野や音声伝達等に制限があると、正しい全体像は伝わってきません。

加えて、視覚や聴覚はずっと集中は出来ないし、記憶していくことも出来ません。

私たちにとって、一番確実で大切なことは、目の前の患者様がいるその場所で、五感をフル活動し起きている事象を理解、分析し、正しいと思われる行動を起こし、記録し、振り返り、自分の経験値を増やし、目の前の、また、次の患者様、利用者様に活かすことです。

昨年秋、岩手県の宮沢賢治記念館にまいりました。

賢治は、安定した学校教員としての職を捨てて、岩手の貧しい農民の為、現場での指導に従事し、結局は病気で若くして、亡くなりました。

亡くなった後に愛用のトランクから出てきた手帳に、あの有名な詩が書かれていました。

世の中に発表する為でなく、自分に言い聞かせる為のものでした。

医師になって何十年も経つのですが、久しぶりに頭をガツンと殴られたような気がしました。

「疲れたなんて、何言ってるんだよ」と言われたと??

実は、僕の部屋に貼ってあるのですけど

『雨にも負けず、風にも負けず、雪にも負けず、夏の暑さにも負けぬ丈夫な体を持ち、欲は無く、けっして怒らず、いつも静かに笑っている。1日に玄米4合と味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを自分の感情を入れずに良く見聞きし、分かり、そして忘れず。

野原の松の林の陰の小さな茅葺の小屋に居て、東に病気の子供があれば行って看病してやり、西に疲れた母が居れば、行ってその稲の皮を背負い、南に死にそうな人あれば、行って怖がらなくても良いと言い、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろと言い、日照りの時は涙を流し、寒さの夏はオロオロ歩き、皆に「でくの坊」と呼ばれ、誉められもせず、苦にもされず、そういう者に私はなりたい。』皆さん、私は確かにロートルです。でも今以上に頑張ります。林会長を中心に据え、私たち執行部は勿論、現場の職員の皆さん一人一人の頑張りが、グループ全体の輝きを増し、たくさんの困っている人たちを救う力となります。

普通に暮らしてきた人たちが、困ることの無い社会にしたいと思います。

どうか本年も宜しくお願い致します。

〈副会長 山田 忠義〉 医療推進担当

ただいまご紹介に与りました、山田と申します。簡単な自己紹介を致します。

昨年4月より、鳳凰会グループの医療推進担当の副会長として着任いたしました。

医療推進の一環とし、今一度、グループ法人の基本指針である

“自らが受けたいと思う医療と福祉の構築を目指して”を意識していただきたい。

法人のシンボルマークにもありますように、3つの輪は「医療」「看護」「介護」を表現しています。バランスよく光り輝き、お互いを助け合い、協力しあって一人一人の患者様をトータルにケアする、基本方針を意識し、各医療機関ならびに、各施設で事業所運営にたずさわっていただきたいと思っております。本年は二年に一度の診療報酬改定となります。プラス改定となっておりますが、薬剤、医材ともにマイナス改定です。本改定では看護職員などを対象とした賃金改善の為の処遇改善も創設されています。改定に伴い各医療機関は事業所での試算など適時行って頂きたいと思っております。

先程も話がありましたが、新型コロナウイルスが蔓延し2年経過しましたが、新たな変異株で感染者が急増しております。心身ともにお疲れとは思いますが、引き続き感染対策に注視していただきますようお願いいたします。

〈社会福祉法人 桜楓会 理事長 鍵本 聖一〉

我々の施設は重症心身障害児の方に対応する施設を運営しています。満床は60床の病院ですが、現在は50床で運営しております。来年には60床フル稼働を目指しております。事業予算規模は、昨年末、5億6千万円の収入だったが、今年は7億円を超え、来年は7億半ばとなる。なぜ、社会福祉法人がお金の話をするかですが、法人として自立運営しなければ意味がないと考えております。事業が成り立つから入所者の方、そのご家族、職員または社会に貢献していけるのです。事業が立ち行かなくなると施設は破綻し、職員は路頭に迷い、ご家族や入所者に多大なご迷惑及び不幸をかけることとなる。

多くの皆様方は新型コロナワクチンを2回接種したと思うが、私たちの施設を利用する方は、ほとんど12才未満の方でワクチンが接種できない。もし新型コロナが持ち込まれ感染すると重篤な予後が考えられる基礎疾患を持っている。今日あたり、さいたま市でも私が知る限り、数校の学校閉鎖がでている。来週以降は恐らく、大変な数の学校が機能不全に陥り、多くの患者様が小児科に殺到することが予想される。この中でどうやって施設を守るか、又は残念ながら持ち込まれた時どうするかを想定した運営を余儀なくされる。職員一同に対しては、いつもやっている感染対策を特別なことをやるのではなく、日々しっかり行っていこうと伝えている。残念ながら持ち込まれても、最小の被害で食い止める。

今度も皆さん方のご支援が必要ですので、何卒宜しくお願い致します。